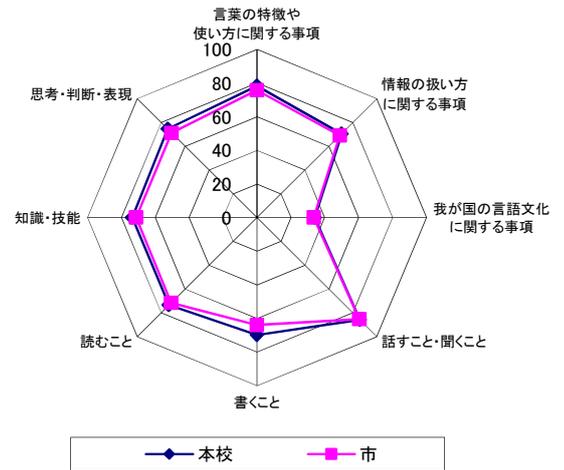


# 宇都宮市立築瀬小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	78.3	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	70.6	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	34.1	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	85.9	85.5	86.5
	書くこと	69.8	63.9	65.8
	読むこと	73.5	71.6	69.5
	観点別	知識・技能	73.6	71.3
思考・判断・表現		74.5	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

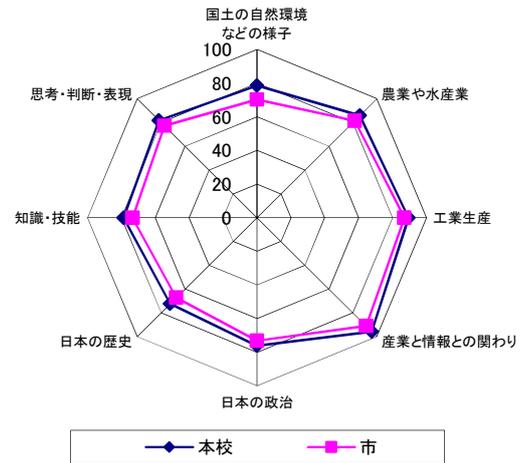
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○平均正答率は78.3%で、市の平均と比べて2.5ポイント高い。 ●「第5学年に配当されている漢字を正しく書く」項目は市の平均と比べて1.8ポイント低い。 ●「三字の熟語の成り立ちについて理解している」項目は、市の平均と比べて1.3ポイント低い。	・漢字の読み書き、熟語の成り立ち、敬語においては、引き続き小テストや復習を継続し、漢字の読み書きの定着を図り、言葉の適切な使い方ができるようにする。 ・習った漢字は必ず使うよう意識を高めさせ、当該学年以外の既習の漢字を進んで使い、復習する機会を多くもたせるようにする。
情報の扱い方に関する事項	○平均正答率は70.6%で、市の平均と比べて1.5ポイント高い。	・今後も、原因と結果など情報と情報との関係について理解し、文章を要約し、説明的な文章を読み取る学習を継続していく。
我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は34.1%で、市の平均と比べて0.6ポイント高い。	・言語由来に関心を持ち、和語や漢語、外来語についての理解を深めることができるように、今後も、新出漢字の学習の際に、漢字の由来や熟語の学習を行う時間を設ける。 ・読む活動では、情景を想像させたり、グループで工夫して発表させたりする。 ・現代との接続という視点からは、故事成語とSNSの違いなどに触れながら取り組めるよう工夫する。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は85.9%で、市の平均と比べて0.4ポイント高い。 ●「話の内容を捉えている」項目は、市の平均と比べて0.7ポイント低い。	・正確に話の内容を捉えることができるよう、話す・聞く学習活動を意図的・計画的に設定する。 ・友達の意見と自分の意見とを比べながら聞いたり、話の要旨を正確に聞き取ったりする学習活動を、教科横断的に行っていく。
書くこと	○平均正答率は69.8%で、市の平均と比べて5.9ポイント高い。 ○「目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にしている」「文章全体の構成や展開を考えている」「予想される反論とそれに対する意見を書いている」項目は、市の平均と比べて10ポイント以上高い。 ●「目的に応じて、文章を簡単に書いている」項目は、市の平均と比べて6.4ポイント低い。	・今後も、自分の考えやその理由を明確にして書く活動を、教科横断的に取り入れていく。 ・短い文章で要点を的確に書き表す学習活動を計画的に取り入れていくようにする。
読むこと	○平均正答率は73.5%で、市の平均と比べて1.9ポイント高い。 ●「登場人物の様子について、描写を基に捉えている」項目は、市の平均と比べて2.4ポイント低い。	・物語文を読み取る際は、描写に着目して、登場人物の心情や様子を捉えられるようにしていく。

# 宇都宮市立築瀬小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	78.6	70.3	66.4
	農業や水産業	85.9	81.6	75.3
	工業生産	89.4	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	95.9	91.0	81.3
	日本の政治	76.2	73.2	75.3
	日本の歴史	72.5	67.4	68.5
観点別	知識・技能	78.7	73.5	72.5
	思考・判断・表現	81.8	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

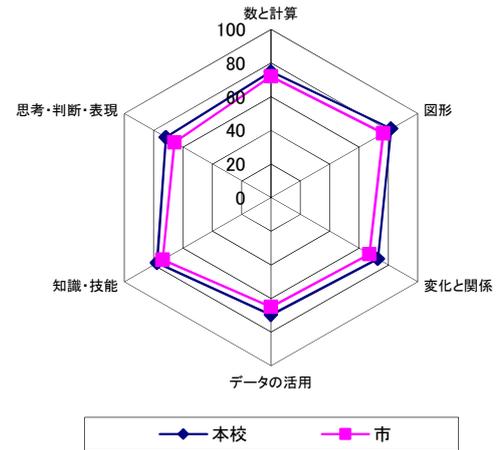
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>○平均正答率は78.6%で、市の平均と比べて8.3ポイント高い。</p> <p>○世界の中の国土の様子について、日本の周辺の海洋名を答える問題では、市の正答率よりも4.7ポイント高く、地図中の海洋の位置関係を理解していることが分かる。</p> <p>○近年日本で起きた自然災害の発生場所について答える問題では、市の正答率よりも13.8ポイント高く、国内の情勢を理解していることが分かる。</p>	<p>・今後も、日本の国土や世界の地理に関する学習では、地図帳や地球儀を活用して、位置関係を理解できるよう継続して指導していく。さらに、必要に応じて、画像や映像資料を用意し、視覚的にも理解できるように意識して取り入れていく。</p>
農業や水産業	<p>○平均正答率は85.9%で、市の平均と比べて4.3ポイント高い。</p> <p>○水揚げされた魚の出荷作業における工夫について、資料をもとに判断する問題では、市の正答率よりも1.6ポイント高く正答率も96.5%と非常に高かった。</p> <p>●米の生産が盛んな地域についての理解をもとに、資料から判断する設問では、市の正答率よりも6.6ポイント高いものの、正答率は72.9%と他の問題と比べて低かった。</p>	<p>・日々の授業の中で、資料を根拠に自分の考えを述べたり、ノートにまとめたりする活動を取り入れていくことで、情報活用能力を高めていく。また、グラフや表、画像など、様々な資料に触れる機会を増やしていく。</p>
工業生産	<p>○平均正答率は89.4%で、市の平均と比べて2.4ポイント高い。</p> <p>○自動車の製造工程について理解しているかを見る設問では、市の正答率よりも4.3ポイント高かった。</p> <p>○安全性の高い自動車づくりについて、資料を基に表現する設問は、市の正答率よりも0.3ポイント高く、正答率も95.3%と高かった。</p>	<p>・今後も継続して、日本の工業生産の特色について学習を深め、基礎的事項をしっかり定着させるようにする。映像資料や、具体的な事例等を効果的に授業で取り扱うことで、より深い理解につながるようにしていく。</p> <p>・今後も継続して、日本の工業の特色について地図帳などで日本の工業地帯の位置関係をつかめるようにしていく。また、日本の輸出入にも目を向けさせ、世界とのつながりにも着目させるようにしていく。</p>
産業と情報との関わり	<p>○平均正答率は95.9%で、市の平均と比べて4.9ポイント高い。</p> <p>○情報の発信と受信の注意点についての問題では、市の正答率よりも、6.3ポイント高かった。</p> <p>○情報を生かした産業について考える問題では、市の正答率よりも3.4ポイント高かった。</p>	<p>・産業における情報活用について具体的な事例を使って理解を深める学習を心掛ける。その中で、生産者の立場や消費者の立場の両者の立場について考えさせるなど、課題を多角的に捉えられるようにしていく。</p>
日本の政治	<p>○平均正答率は76.2%で、市の平均と比べて3ポイント高い。</p> <p>○租税の役割についての理解を基に判断する問題では、市の正答率よりも16.5ポイント高かった。</p> <p>●基本的人権の尊重の基本的な考え方についての理解度が、市の平均と比べ、10ポイント低かった。</p>	<p>・基本的人権の尊重の考え方が市や国の政治に反映されていることについて、資料を基に読み取る活動を取り入れ、理解を深めていく。</p> <p>・次年度も租税教室などの活動を生かし、理解を深めていく。</p>
日本の歴史	<p>○平均正答率は72.5%で、市の平均と比べて5.1ポイント高い。</p> <p>○中大兄皇子が行ったことについての問題では、正答率が市の平均と比べ、9.2ポイント高かった。</p> <p>●弥生時代についての理解を基に判断する問題では、市の正答率よりも3.3ポイント低かった。</p>	<p>・その時代の出来事や人々の生活様子などについて、前後の時代と比較させることで時代の流れを捉えさせる。</p> <p>・NHK for schoolやデジタル教科書の映像資料を活用し、当時の様子が想起できるような授業を心掛けていく。</p>

# 宇都宮市立築瀬小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	75.0	72.1	74.6
	図形	81.9	76.5	76.1
	変化と関係	72.9	67.1	59.7
	データの活用	69.8	65.0	64.5
観点別	知識・技能	77.6	73.8	74.7
	思考・判断・表現	71.7	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

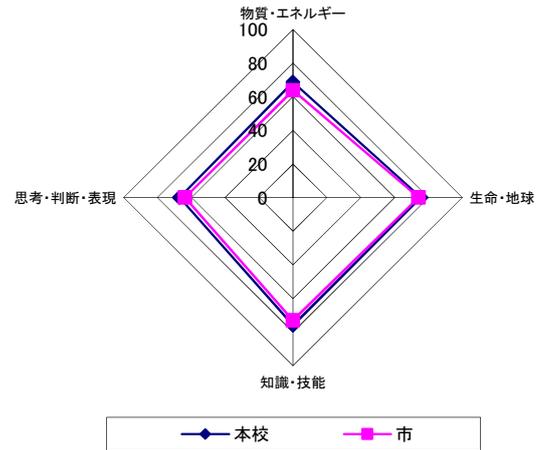
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○平均正答率は75%で、市の平均と比べて2.9ポイント高い。</p> <p>○「文字の式」の問題において、市の平均を上回った。特に、文字を使って、2つの数量の関係を1つの式に表す問題では、市の平均回答率より9.6ポイント高かった。</p> <p>●帯分数×真分数を計算する問題では、市の平均正答率より1.4ポイント低かった。</p>	<p>・これからもコース別少人数学習を取り入れて、基礎的な計算の技能を身に付けたい。</p> <p>・帯分数と真分数の計算について、図や具体物を用いて意味理解を深め、計算手順を丁寧に確認する。</p> <p>・基礎的な計算力の定着を図るため、つまづきに応じた反復練習や段階的な問題設定を行う。</p>
図形	<p>○平均正答率は81.9%で、市の平均と比べて5.4ポイント高い。</p> <p>○「正多角形・合同・立体」の全ての問題において市の平均を上回った。三角形の3つの角の和を理解し、2つの角の大きさから1つの外角の大きさを求める問題では、市の平均より13.2ポイント高かった。</p> <p>●複雑な立体の体積を2つの直方体に分けて求める問題は全国より3.1ポイント低く、市と同等である。</p>	<p>・条件を整理して考える問題や理由を説明する活動を取り入れ、思考力を更に高める。</p> <p>・図やモデルを用いて見通しをもたせ、立体を分けて考える経験を重ねる。</p> <p>・体積の求め方を式や言葉で説明させる活動を通して、考え方の整理と定着を図る。</p>
変化と関係	<p>○平均正答率は72.9%で、市の平均と比べて5.8ポイント高い。</p> <p>○5つの設問のうち、4つの設問において市の正答率を上回った。単位量あたりの大きさを求めて、どちらのセットの方が1冊当たりの値段が安いのかを記述で説明する問題では、市の平均正答率を9.8ポイント上回った。</p> <p>●速さと時間から、道のりを求める問題では、市の平均正答率より0.4ポイント低かった。</p>	<p>・「単位量当たりの大きさ」「割合・割合のグラフ」ともに正解率が高いので、引き続き、割合や速さなどの求め方を定着させられるように指導していく。</p> <p>・「速さ」の問題では、「道のり÷時間＝速さ」の公式を基に、時間や道のりを求める問題に取り組ませ、確実に計算で求められるようにしていく。</p> <p>・引き続き、計算だけでなく、自分の考えを言葉で表現する機会も適切に取り入れていく。</p>
データの活用	<p>○平均正答率は69.8%で、市の平均と比べて4.8ポイント高い。</p> <p>○「平均・データの見方」の4つの設問において、すべて市の平均を上回った。</p> <p>●「割合・割合のグラフ」では、円グラフから正しく読み取る設問において、市の正答率より3.1ポイント低かった。</p>	<p>・算数に限らず、他の教科や日常生活の中で、平均を使って考えることができる場面を教えたり考えさせたりすることで、平均を活用できるように意識的に取り上げていく。</p> <p>・授業等で、グラフを扱う際に、割合に着目するだけでなく、数値を求めたり、グラフ同士を比較したりするなど、多角的に捉えられるように指導していく。</p>

# 宇都宮市立築瀬小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	68.6	63.8	61.6
	生命・地球	75.5	74.1	73.3
観点別	知識・技能	75.9	73.0	71.3
	思考・判断・表現	67.0	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○平均正答率は68.6%で、市の平均と比べて4.8ポイント高い。</p> <p>○電流のはたらきでは、電磁石の性質を指摘したり、引きつけたゼムクリップの数から、コイルの巻き数と乾電池のつなぎ方を推測したりする設問で、市の平均を大きく上回った。</p> <p>●物のとけ方では、「水よう液」の定義を問う設問で、市の平均より2.8ポイント低かった。</p>	<p>・今後も実験や観察のねらいを明確にして主体的に取り組むことができるようにするとともに、実験の結果から分かることや考えたことを、自分の言葉で表現できるようにしていく。また、言葉の定義を、日常生活や経験等と結び付けながら押さえていくようにする。</p>
生命・地球	<p>○平均正答率は75.5%で、市の平均と比べて1.3ポイント高い。</p> <p>○●動物のからだのつくりとはたらきでは、心臓と血液のはたらきについて正しく理解しており、市の平均より7.4ポイント高かった。しかし、仮説を確かめる実験の構想をする設問では、市の平均より5.9ポイント低かった。</p> <p>●流れる水のはたらきでは、侵食についての設問で、市の平均より低かった。</p>	<p>・引き続き実物教材とデジタル教材の双方を有効に活用し、児童一人一人が実感を伴った理解が図れるようにしていく。ペアやグループでの話し合いや予想や考察をする時間を十分に確保して、科学的な見方・考え方を育成していく。</p>

## 宇都宮市立築瀬小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的に学ぶための学習課題の設定	・必要な場面に応じて精選した資料の提示 ・ICT機器の効果的な活用	「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」という質問における肯定的回答割合が81.6%であった。また、「学習をしていて、おもしろい、楽しいと思うことがある」についても88.5%と、いずれも市の平均を上回っている。今後も、児童の学ぶ意欲を高められるよう指導を行っていく。
各教科の特性を生かした学び合い活動	・ペア・トリオ・グループなど学習形態の工夫	「グループなどでの話し合いに自分から進んで取り組んでいる」という質問に対し、肯定的回答割合が85.1%と市の平均を8ポイント上回っており、昨年の結果と比較しても高かった。引き続き、各教科の特性に応じた学習形態の工夫を図るとともに、児童が互いに考えを伝え合う機会を多く設け、活発な学び合いにつなげていく。
学習内容や発達段階に合わせたICT機器や図書資料の活用	・司書教諭との連携を図った図書資料の活用 ・学ぶ意欲につながるICT機器の活用	「インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ている」の肯定的回答が90.8%だったのに対し、「本を利用して、学習に関する情報を得ている」では52.9%と大きく下がる結果となった。今後は、ICT機器も活用していくと同時に、図書にも親しむ機会を設け、双方をバランスよく使うことができるよう支援していく。

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力調査では、全ての教科において、「知識・技能」「思考・判断・表現」共に、市・県・国の結果を上回った。教科・単元の実態に応じた習熟度別による指導や、日頃からの繰り返し指導により、基礎的な学習能力が十分に定着していると考えられる。今後も、学年の実態に応じた指導に努めていく。</li> <li>・家庭学習に関しては、「宿題をきちんとやり期限までに提出している」の質問に対し、肯定的に回答した児童の割合は、ほとんどの学年で市の平均を上回った。学年によりばらつきがあるため、家庭と学校とで連携を図りながら、引き続き指導をしていく必要がある。</li> <li>・3年生以上の学年を対象とした、ICT機器を利用した学習に関する質問について、「インターネットを活用して情報を得たり、調べたことをパソコンを使って相手に分かりやすく伝えたりしているか」の質問に対する肯定的回答の割合は、「インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ているか」の肯定的回答割合を下回る結果であった。このことから、ICT機器を活用して得た情報を、正しく発信する力を育てていく必要があることが分かった。今後は、ICT機器を有効に活用するとともに、得た情報から必要なものを選択し、相手に分かりやすく発信する学習にも努めていきたい。</li> </ul>
---